

みやざき歴史文化館に行ってきました！！



「おかしの子供たちのくらし展」を見に、みやざき歴史文化館に行ってきました。館内にはお面や紙芝居、コマなどが展示してあり皆さん昔を懐かしんでいたのか、じっくりと展示物をご覧になっていました。



この日は、慰労訪問に来ていただき昔の歌を皆さんで歌いました。マイクを持って唄う人や体を揺らしながらリズムを取る人々様々ですが皆さん楽しまれました。

さくら祭

平成29年9月10日17:30～ さくら荘中庭にて開催(雨天決行)
イベント盛りだくさん、ふるってご参加ください！！

社長による職員紹介

今回はケアホームさくら荘の介護職、立山さとみさんです。元々介護職に興味があり、さくら荘スタッフからの誘いもあったことで去年の4月に入社され、その後働きながら資格も取得された頑張り屋さんです。とにかく利用者様にとって何がよいか、どうするべきかを常に考え、一つ一つの仕事を丁寧に行う彼女。息詰まると陰で涙を流してしまうほど熱い想いを持つ人だ。そんな彼女の休日は小学2年生の息子と旦那様の3人で公園に草スキーに出かけたり、温泉に行ったりと家族で過ごすことが多いそうだ。今後は介護職としての知識技術を深めるために広い視点で学びたいと考えているとのこと。そして家族が増えるといいな、出来れば女の子♪♪と素敵な笑みを浮かべる。家庭と仕事の両立を図りながら今後も活躍してほしい！！



有限会社 聖 社是 「利他の心」

ひじりにズームイン！！

2017年
9月号

介護の「割れ窓理論」をご存知ですか？
菊地 雅洋さんという方が唱えている理論です。元々は犯罪心理学用語なのですが、介護サービスにおいては介護を提供する側の「言葉」に置き換えて正しい言葉を使う意味を説いています。

内容としては、小さなほころびをその時点で繕うことによって大きな犯罪を防ぐことが可能になるという理論であり、その実践は悪名高いニューヨークの地下鉄犯罪を減らすために、地下鉄車両や駅の「落書き」を消すことによって一定の効果があつたとしているものである。

菊地 雅洋さんによると、介護サービスにおける最初の「割れ窓」が、支援者の言葉遣いであると思っている。どのような素晴らしい理念とモチベーションを持っている介護者であっても、その言葉が乱れることで、知らず知らずのうちに利用者に対する「慣れ」や「惰性」による心づかいの乱れが出てくるという理論である。
親しみを込めたコミュニケーションのためには、堅苦しい言葉づかいは必要ないと考える人もいるが、しかし我々がお世話させて頂いている高齢者の方々は、我々にとってすべて人生の先輩であり、多くの場合、家族がいて、家族にとっては尊敬する「お父さん」や「お母さん」である。そういう人々にあえて言葉づかいを乱して、友達言葉でフレンドリーにふるまう必要はない。我々は家族に代わって、家族と同様の心のこもった支援をする必要があつても、家族そのものにはなれないのだから、家族であれば許される横柄さまで真似る必要はないのである。

有限会社聖としても、言葉使いに対しては敏感に対応しています。なにか気になることがあれば、どういった形でもいいのでお伝え下さい。誠意をもって対応していきます。

三好春樹の「介護名言カード」をご存知でしょうか？そこに書かれていること内容を一つおつたえします。

用のないナースコールは“純粋ナースコール”。鳴る前に行くのが原則。なぜなら、介護力以外の、自分が世界から忘れられていないことの確認を求めているのだから。

これは、介護する側からすれば用が無いのにナースコールを押すことは仕事の流れを断ち切る行為であり迷惑な話と思って対応をしてはいけませんよと言うことです。逆にそういった方たちというのは他者との関係を希薄に感じており、少しでも他者との関係、つながりを求めていることに気づくことが大切であると言うことです。そしてそれは、施設の介護力を試されることでもあります。

有限会社聖としても、介護者として利用者様に寄り添えるケアをしていくためにも、用事がないのにナースコールを押したり用事をわざわざ作って声を掛けてきたりする方にたいしては、逆に声掛けの頻度を密にすることで本人の気持ちも落ち着くのではないかと考えています。もちろん、それだけが原因ではないと思いますのでうまくいかないことも多々あります。それでも、声なき声を聴いて、それを拾い上げる事業所でありたいと思いますのでこれからもよろしくお願ひいたします。

有限会社 聖

住宅型有料老人ホーム ケアタウン飛鳥
住宅型有料老人ホーム ケアホームさくら荘
デイサービス陽だまり (通所介護)
訪問看護ステーション翔 (訪問看護)
ケアサポートセンターひじり (居宅介護)
ケアセンターさくら (訪問介護)

ケアセンターさくら便り

認知症ケア専門士の研修で、「地域医療」「地域の中で暮らし続ける」「本人を見据える」のテーマでした。別々のテーマのようですが実はつながりがあります。認知症の方だけの問題ではなく、癌などで余命宣告された方のサポートをどうするか？住み慣れた家で暮らすために必要なサポート、色々な職種の協力が必要となってくる。その為には、本人の本当の気持ちを聞きださなくてはなりません。スタッフには、利用者様と日頃からのコミュニケーションを大切に信頼関係を築けるよう研修の内容を周知していきます。

お洒落なシティ感覚 ケアタウン飛鳥

陶芸教室



8月5日に陶芸教室を行いました。参加された利用者でお皿や箸置き、コップや置物などご自分のイメージ通りの作品を作っていました。利用者のHさんは「久々に土をいじってお皿を作って楽しかったよ。出来上がりが楽しみ。」と話されていました。出来上がった作品は9月9日に行われる飛桜祭の陽だまりショップで販売します。利用者スタッフで丹精を込めて制作したので、ぜひお買い求めください。



顔 パック



ある日の午後の活動の時間、なんと顔面に顔パックしているではありませんか！！「私たち、美人になるわよ。」と言わんばかりに10分間もパックしていました。パック後は肌が綺麗でスベスベ。中には20歳若返ったみたいとか言っていました。「綺麗になった私たち、今から宮崎の市街地へ出掛けるわよ」って聞こえてきそうな雰囲気でした(´_`)



お詫びと訂正があります。
前回の広報誌にありました2017飛桜祭の日程について9月29日と表記しておりましたが
実際には9月9日(土)となります。
心よりお詫びと訂正をさせていただきます。

訪問看護ステーション翔からのお知らせ

訪問看護の仕事と1日のスケジュール 大変？どんな仕事？やりがい？
訪問看護は看護師が自宅、または入所中の施設に訪問し、健康管理などを行います。30分～1時間程度利用されている利用者様を訪問し、全身状態の観察や療養上のお世話をします。状態が気になる時は主治医の先生に連絡しその後の治療などの指示を仰ぎます。1日7件位の利用者様を時間を決めて訪問しますが、緊急時の対応などで時間をずらして訪問させていただいたり、看護師が判断しないといけない場面も出てくるのでそういう時に難しさを感じますが、1人の方とゆっくり話しが出来、ご家族様とも関わりが出来るので、そういう時はとてもやりがいを感じます。

そうめん流し



今年も「そうめん流し」を行いました。前日に竹を切り、なんとおつゆ入れから箸まで竹で作るといった手の込みよう！！少しでも「夏」の季節感と、食事を楽しんで頂けたらという想いで頑張りました。いざ、「そうめん流し」が始まると、皆さん一斉に食べ始めるかと思いきや、「何事？」といった感じで、なかなか箸を付けようとされませんでした。1人立ち上がり、2人立ち上がり…いつの間にか「そうめんまだ？」と言った声が聴かれるようになり、気が付いたらアッと言う間にそうめんがなくなりました。慌てて調理の方にお願ひし、追加でそうめんを湯がいていただくことに…少しバタバタとしましたが、今年の「そうめん流し」も、とても楽しかったです。

スイカ割り



今年の「スイカ割り」もキンキンに冷やした大きなスイカを2つ準備！！スイカを見るなり、「ほ～。どこかい持って来たんな？」「早よ食べようや」などなど。目隠しをして、スタッフや利用者様の声に誘導されながら恐る恐る一歩、また一歩…。スイカを叩くのも恐る恐る叩かれる方や、ここぞとばかりに思いきり叩かれる方など、とても盛り上がりました。最後はもちろん、皆さんで美味しく頂きました。とっても甘～いスイカでした。



ケアサポートセンターひじりからの介護保険便り

介護保険制度の持続可能を確保する為、制度が変更になります。
・現在介護負担割合2割の方のうち、所得が高い層の負担割合が3割負担になります。H30年8月1日から施行します。
・各医療保険者が納付する介護納付金(40～64歳の保険料)が、報酬額に比例した負担額になります。H29年8月から開始しており、段階的に適応され、H32年までに全面導入されます。
・高額介護サービス費(介護サービス利用で自己負担額が高額になった際の払い戻し)の8月から見直しがあります。一般区分の月額上限は37,200円から44,000円に引き上げ。ただし、同一世帯の65歳以上のすべての方が、1割負担の場合は年間446,400円に設定(37,200円×12カ月)に設定し、年間の負担が現行制度を超えない措置がとられています。これは3年間の時限措置になります。